

ロキソプロフェンの総合かぜ薬

ロキソプロフェンの入ったOTC医薬品ロキソニン®シリーズは第一三共ヘルスケアの商品になりますが、今回はテレビCMでもおなじみのロキソニンの内服薬シリーズをまとめてみました。

1) 一般用医薬品ロキソニン®内服錠のラインナップと成分含有量

商品 成分等	ロキソニンS	ロキソニンS クイック	ロキソニンS プラス	ロキソニンS プレミアム	ロキソニンS プレミアムファイン	ロキソニン 総合かぜ薬
分類	第1類	第1類	第1類	第1類	第1類	要指導
含有錠数	1錠中	1錠中	1錠中	2錠中	2錠中	2錠中
商品番号	①	②	③	④	⑤	⑥
ロキソプロフェン	60mg	60mg	60mg	60mg	60mg	60mg
メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	←制酸薬	100mg		100mg	100mg	
酸化マグネシウム	←制酸薬		33.3mg			
アリルイソプロピルアセチル尿素	←鎮静薬			60mg		
無水カフェイン	←軽い脳興奮			50mg		
シヤクヤクエキス	←鎮痙薬				36mg	
ヘスペリジン	←VC吸収促進				30mg	
ジヒドロプロテインリン酸	←中枢性鎮咳薬					8mg
d1-メチルエフェドリン塩酸塩	←気管支拡張薬					20mg
ブロムヘキシソリン塩酸塩	←去痰薬					4mg
クレマスチンフマル酸塩	←抗ヒスタミン薬					0.45mg

2) 各商品の特徴(各添付文書から特徴をピックアップしてみました。)

①～⑤：効能・効果は同じで次のようになっています。『頭痛・月経痛（生理痛）・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・腰痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・肩こり痛・耳痛・打撲痛・骨折痛・捻挫痛・外傷痛の鎮痛，悪寒・発熱時の解熱』また用法も共通しており、いずれもロキソプロフェン1回60mgとして頓用で1日2回まで（3回まで可）となっています。

①の特徴：ロキソプロフェンの単剤製品です。痛みをすばやくおさえ、胃への負担の少ないプロドラッグと記載されていますが、この特徴は他の製品共通の特徴になります。

②の特徴：錠剤崩壊技術で速効性を持たせている。加えて制酸剤(メタケイ酸アルミン酸マグネシウム)で胃を守る。

ところでNSAIDsと制酸薬の併用は胃保護のエビデンスはありましたでしょうか？

③の特徴：痛みをすばやくおさえる。②とは別の**制酸剤(酸化マグネシウム)**で胃を守る。

④の特徴：鎮痛成分の効果を高めるアリルイソプロピルアセチル尿素を配合。

☛**アリルイソプロピルアセチル尿素**は脳の興奮を抑えて**痛みを鈍く感じさせる**作用があります。一方、反復使用で**依存を生じ乱用**につながる恐れがある成分になります。もう一つの配合薬の**無水カフェイン**は解熱鎮痛剤の効果を増強する作用もありますが**脳を刺激して覚醒(興奮)**する作用もあり、この相反する作用をもつ配合製品がOTCかぜ薬などには数多くあるのですが不思議です。この件については本ニュース380号と500号でも検討しています。

⑤の特徴：締め付けられるような下腹部の痛みを伴う**生理痛に着目**したシャクヤクエキスとヘスペリジンのダブル配合。胃への負担を軽くする**制酸剤(マケイ酸アルミニウム)**も配合。

☛**シャクヤク(芍薬)エキス**は平滑筋・骨格筋の筋痙攣を治す作用があるとされ、この適応をもつシャクヤクの配合漢方薬では芍薬甘草湯が有名です。医療用芍薬甘草湯エキス(クラシエ)で分3の時の1回量2g中にはシャクヤクエキスが約**483mg**含まれていると考えられるので本剤の1回量**36mg**は**7%程度**でしかなく、どれだけ鎮痙効果に役立っているかは不明です。**ヘスペリジン**はビタミン様成分として知られビタミンCの吸収を促進するとされています。

3) ⑥ロキソニン®の総合感冒薬

最近テレビのCMを見ていた時に初めて知ったのですが、ついにロキソプロフェンの総合感冒薬が出てきたのかと驚いた記憶があります。総合感冒薬ですから効能・効果は「かぜの諸症状(鼻水、鼻づまり、くしゃみ、のどの痛み、せき、たん、悪寒、発熱、頭痛、関節の痛み、筋肉の痛み)の緩和」になっています。前表には1回量の成分しか記載していませんが、実際の用法は1回2錠を1日3回になっていますから**1日量**はロキソプロフェンとして**180mg**になります。

医療用のロキソニン®錠の用法を見ると急性上気道炎(風邪症状)での解熱・鎮痛への適応がありますが**頓用**の扱いになっています。**医療用で1日3回(1日180mg)**の投与は関節リウマチ、変形性関節症、歯痛、手術後などの**消炎・鎮痛**への利用になっていますから、いきなり1日量の最大量が**要指導薬**とは言え一般用医薬品として市場に登場したことになります。

すでに**イブプロフェン**の**1日最大量(600mg)**の総合感冒薬も**指定第2類医薬品**として発売されているので何に驚いているのか?という話にはなりますが…。両薬とも1日3回服用で同じ**服薬制限期間**が設けられています。**5~6回服用しても症状がよくなる**場合は服用を中止し相談するとなっています。つまり**2日間**服用しても症状改善が見られない場合は要相談となります。利用者さんによっては症状改善がみられないと継続して使用する人もいると思われるので、さらに特に**熱が3日以上続く時**や**熱が反復**する時も要相談とする記載があります。また症状が改善傾向にあったとしても**期間指定の5日間を超えて服用はしない**で下さいの注意書きもあります。すでに販売されている解熱鎮痛成分としてサリチルアミドとアセトアミノフェンを含む指定第2類医薬品のパイロンPL(本ニュース540号)は「5~6回服用しても症状がよくなる場合は要相談、症状が改善傾向にあっても**期間を記載しない長期連用**をしないでください」となっておりリスクの表現がイブプロフェンやロキソプロフェンより軽い印象があります。副作用の取り扱いでは医療用のその他の副作用に相当する部分が表で記されているのですがイブプロフェン総合感冒薬やパイロンPL錠では表内にある一部の副作用が**ロキソニン総合感冒薬**では**表外にかつ前面**に記載されておりイブプロフェン総合感冒薬や従来の総合感冒薬よりも**副作用が強く出る**のではないかと思います。ロキソプロフェン含む総合感冒薬を1日3回、2~5日間服用する風邪症状とはどのようなものでしょうか。高温が続く場合だとすると今の時期、新型コロナやインフルエンザの症状をマスクして他者への感染を増やしてしまうかもしれません。(終わり)